



沖縄県立那覇国際高等学校

飛躍

学校だより 第5号

2026年(令和8年)7月24日

校是: 右文尚武

(学業を尊び、部活動にも励む)

発行者 校長 伊志嶺嘉典

1 学期終業式・前期卒業式

1 終業式 ～地道な努力で実りある夏を！～

7月22日に1学期終業式を行いました。校長あいさつの後、進路ガイダンス部と生徒ガイダンス部からそれぞれ夏休みの過ごし方について話がありました。

校長からは、「多忙な1学期、日々の学習や行事、部活動に全力を注いだ生徒たちの姿を誇らしく思う。一方で、交通マナーの徹底など自律した行動も求められる。『遠回りだと思った努力ほど夢への近道』という言葉通り地道な積み重ねを大切に、壁にぶつかった時もレジリエンス(心の回復力)を発揮してしなやかに前進してほしい」ということなどを話しました。

2 前期卒業式 ～世界を知った強みを武器に、それぞれの未来へ～

終業式に引き続き、留学から戻ってきた4名の生徒の卒業式を執り行いました。式には3月に卒業した同期の姿もあり、友人の門出を祝福する温かい光景が見られました。

式辞では、留学で得た「多様な価値観への理解」や「未知の環境で生活してきた自信」は大きな財産であること、困難に直面したときこそ学び続ける姿勢を持ち、自分を信じて前を向いて歩んでほしいことを伝えました。世界を知った皆さんだからこそできる挑戦を続け、輝かしい未来を築いてほしいと願っています。



校内弁論大会・英語スピーチコンテスト

7月15日に「校内弁論大会」、翌16日に「英語スピーチコンテスト」を開催しました。校内弁論大会には各学年代表の7名、英語スピーチコンテストには9名の弁士が登壇しました。

どの弁士の皆さんも、自身の実体験や根拠に基づいて自分の考えや意見を述べており、堂々とした発表姿勢は大変立派でした。

特に驚かされたのは、英語スピーチコンテストのレベルの高さです。説得力のある内容はもちろんのこと、豊かな表現力や発音の技量に感動しました。私自身は英語が得意ではありませんが、生徒たちの「伝えたい」という思いがしっかりと届き、「今からでも英語を勉強してみようかな」という気になったほどです。

全力を尽くした生徒の皆さん、ご指導いただいた先生方、本当にお疲れ様でした。県大会に出場する皆さんの更なる活躍を期待しています。なお、大会の結果は下記のとおりです(敬称略)。

★校内弁論大会

最優秀賞 宮國渚咲(3年)

優秀賞 前嶋 すい(2年)

仲村渠にな(3年)

★英語スピーチ

第1位 喜納 一翔(3年)

第2位 グル ユリア(2年)

第3位 仲村渠にな(3年)

全国大会出場！

この夏、本校から2つの全国大会(近畿総体2026、全国高文祭秋田大会)に13名の生徒が出場します。

全国という大舞台で、日頃の練習の成果を存分に発揮し、素晴らしい活躍を見せてくれることを期待しています。温かい応援をよろしくお願いいたします！

【全国総体】

■女子走り幅跳 松川そら

【全国高文祭】

■器楽・管弦楽

(県合同オーケストラ)

仲程香奈子、金城穂乃花

仲間千隼、知念奈桜美

屋嘉比伶欧、武安倫子

■放送

・アナウンス

狩俣有来、田場望愛

・朗読 玉榮蒼乃

■小倉百人一首かるた

高橋咲良、野原徠生

山中 杏 ※敬称略

学校評議員会

第1回学校評議委員会を開催しました。玉城委員から、「単位制への移行」や「保護者とともに生徒の自己肯定感を高める取組」、中村委員からは、「探究活動の充実」や「高大連携の在り方」などについて貴重な意見を頂きました。委員の皆様、お忙しい中ありがとうございました。